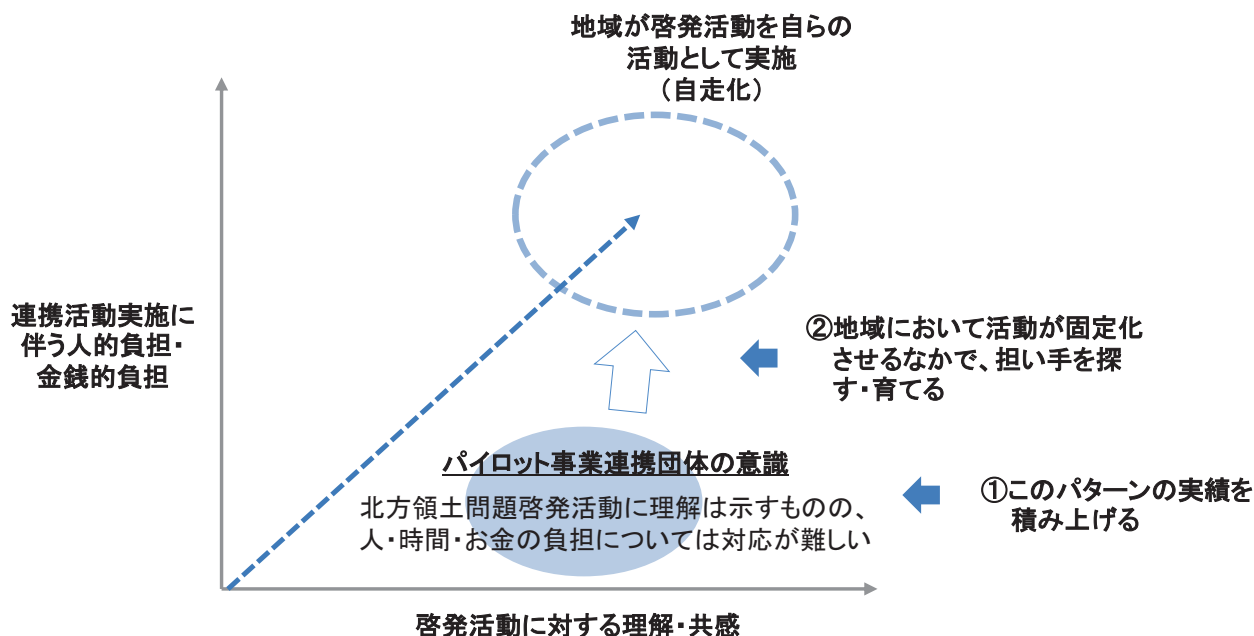


2. 地域と連携した北方領土問題啓発活動の今後の取組について

- ・今回、パイロット事業に協力していただく団体等の抽出・選定には、多くの時間を要した。北方領土問題というテーマから、敬遠されるケースもあったが、地域のイベント・催事と連携する形でのパイロット事業として、4つの事業を展開するという実績を積むことができた。
- ・「地域に啓発活動を自らの活動として実施してもらう」（自走化）ことは、『北方領土問題啓発活動に対する理解・共感』と『啓発活動の実施に伴う人・時間・お金を負担すること』の両方を満たすことが必要になってくる。今回の関係者インタビューで聞かれたように、人・時間・お金の負担のなかでも特に人的な負担が伴うことに対する抵抗感が強かった。
- ・当初想定したように、地域で活動を担ってもらう活動について、今後、働きかけを行う必要がある。今回のパイロット事業で展開した形の事業の実績を積み上げていくことを考える。
- ・地域において活動が定着し、その先の自走化を見据えた取り組みとして展開する。



〈啓発の段階レベル〉

〈各段階レベルに応じた施策〉

認知	<ul style="list-style-type: none"> ・ マスコットキャラクターである「北方領土エリカちゃん」の活用は非常に有効。 ・ 地域のイベント・催事との連携であれば、4つのカテゴリーのうち、スポーツイベント（マラソン）、お祭りが効果的。 →4つのカテゴリー：お祭り型、スポーツイベント、学習／講演会型、お祭り型（メディア連携）
理解	<ul style="list-style-type: none"> ・ 北方領土に関するクイズラリーが、来場者にとって参加のハードルが低く有効である。 ・ 地域のイベント、催事との連携であれば、4つのカテゴリーのうち、お祭り型、お祭り型（メディア連携）が効果的。
共感	<ul style="list-style-type: none"> ・ クイズラリーへの参加から一歩踏み込んで、島民の体験談などを通して、返還要求運動に共感してもらうことが重要。 ・ 北方領土に関する映画・映像などを通して、五感に訴えかけてくるコンテンツの導入が有効。
利害当事者意識	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自らが北方領土問題の利害当事者として意識してもらうためには、北方領土問題に関するセミナーや勉強会が有効であると考えられる。 ・ セミナー・勉強会を通して、北方領土問題の解決が、自分たちの暮らしの豊かさに直結する問題であると認識してもらうことができると考えられる。
行動	<ul style="list-style-type: none"> ・ ①北方領土問題に理解を示しているものの、人、時間、お金の負担が難しい人に対して、場所の提供の協力を求めていく。 ・ ②地域で啓発活動を自ら行っていく人を①の量的発展を通じて増やしていくことが重要。

今回の提言は、一般生活者層を「行動」レベルに持ち込むことを視野に入れているものの、提示した施策は「認知」「理解」レベルに対応したものである。

(1) 今後、地域と連携した啓発活動実施の事例を積み上げるための方策

① 「地域と連携した北方領土問題啓発活動」の取り組み内容を説明するツール類の制作

- ・今年度実施したパイロット事業（地域と連携した北方領土問題啓発活動）の取組内容を元に、地域にアプローチするためのパンフレット等のツール類を制作。今後、連携を働きかける際に説明用ツールとして活用する。

→今回、パイロット事業の連携先を探すのに苦労したのには、イベント・催事の主催者（主として自治体）が、北方領土問題を政治的イシューと捉え、できることなら敬遠したいという心理であったことが想像に難くない。また、自治体の心理として、住民は北方領土のような政治的イシューと関わりたくないはずだ、という解釈によって敬遠したことが考えられる。

今後、このような意識を払拭することが重要であるが、今回のパイロット事業及び評価調査（来場者調査/関係者調査）で得られた情報を整理して、自治体へのアプローチの際に活用する。

【説明ツールにおける掲載内容例】

◇「地域と連携した北方領土問題啓発活動」（今年度のパイロット事業）におけるプログラム内容／ブース内容

- ・地域のイベント・催事と連携した形での北方領土問題啓発活動として、実際にどのようなプログラム内容の取り組みを行うのかを説明する必要がある。

<講演会>

- 「北方領土問題」をテーマにしたセミナー等の開催
- 「北方領土問題」をテーマにしたブース展開
- 「北方領土問題」について啓発するポスター掲出、パンフレット等の配布
- 北方領土（北方四島）に関連したテーマをモチーフにした景品の進呈/グッズの配布

<勉強会（北方領土問題に関する勉強会を実施）>

- 北方領土及び北方領土問題（以下、本テーマ）についての講演（レクチャー）
- 本テーマに関しての意見交換の実施

<お祭り型・県民の集い/市民まつり>

- 北方領土（北方四島）に関連したブース展開（北方領土の自然等）
- 北方領土（北方四島）に関するポスター掲出、パンフレット等の配布
- 北方領土（北方四島）に関連したテーマをモチーフにした景品の進呈/グッズの配布
- キャラクター（エリカちゃん）の活用（イベントへの参加等）

<スポーツイベント型・市民マラソン>

- 北方領土（北方四島）に関連したブース展開（北方領土の自然等）
- 北方領土（北方四島）に関するポスター掲出、パンフレット等の配布
- マラソンと連動させた広報（北方領土問題への理解）
- 北方領土（北方四島）に関連したテーマをモチーフにした景品の進呈/グッズの配布

- キャラクター（エリカちゃん）の活用（イベントへの参加等）

→広報キャラクター「エリカちゃん」が登場がある場合には、今回のパイロット事業において、子どもたちに人気が高かったことを画像付きで紹介する。

※北方領土返還要求運動への賛同・署名活動は、すべての取組において実施。

◇パイロット事業評価調査の回答状況（一般生活者の意識）

- ・今回のパイロット事業に参加した一般生活者の回答状況を説明。特に北方領土問題に対する関心度といった項目について説明。一般生活者においては、北方領土問題が必ずしも政治的イシューではないことを理解してもらう。

◇署名獲得数

- ・今回のパイロット事業において、各地域のブースを来場者数と北方領土返還要求の署名協力者の数を整理して提示。ブース来場者の多くが署名に協力したことを伝えて、一般生活者においては、北方領土問題が必ずしも政治的イシューではないことを理解してもらう。

② 連携の働きかけが容易イベント・催事について優先的にアプローチする

- ・今回のパイロット事業の展開において、スポーツイベント（マラソン等）、地域の祭りは比較的、連携がやりやすいように感じた。このような取り組みを行っている地域、団体に対してアプローチを行う。

→マラソンは、個人や家族等、少人数でのグループ参加が基本で、滞在時間が長く、自由になる時間が多く、北方領土ブースを訪れる機会が多くなる。

→今年度、全国の主要なイベント・祭りを整理した300件のデータベースがあるため、そのデータベースから次の活動をリストアップすることができる。

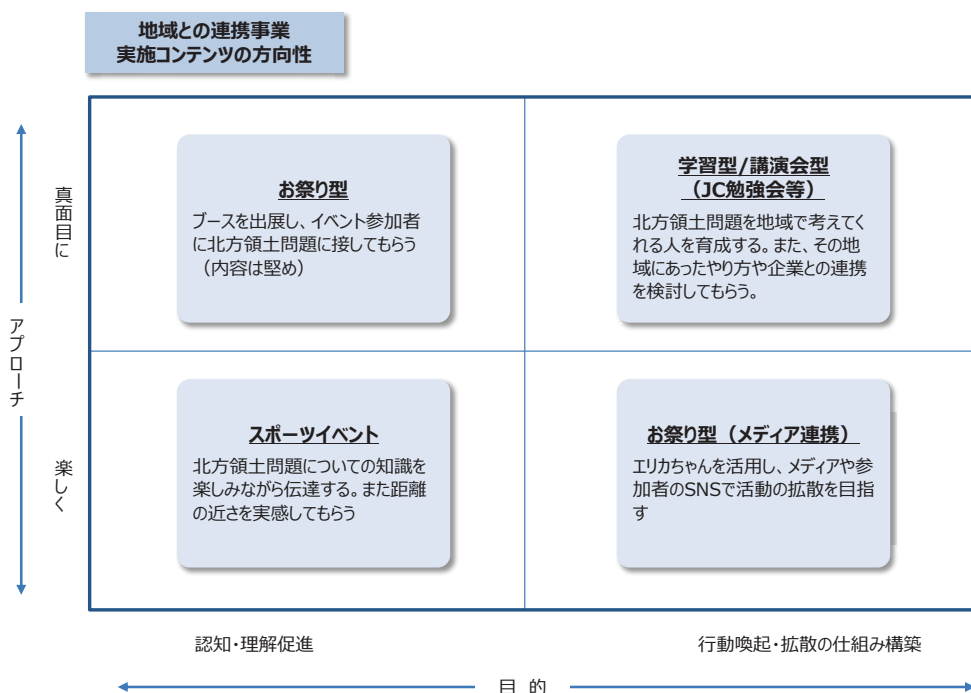
③ パイロット事業で効果の高かったプログラムを積極的に活用する

- ・連携プログラム時に想定した講演会型、お祭り型、スポーツイベント型、学習型のうち、お祭り型、スポーツイベント型でのプログラムを展開したが、このなかで、クイズラリーを中心に、エリカちゃんが場を盛り上げる仕組みは有効であることが分かった。

→プログラムの内容によって、署名の数も一定数確保できている

④ 地域が連携（協力）しやすいように取り組み内容に幅を持たせる

- ・地域が連携（協力）しやすい取り組みとなるように、連携先団体・担当者の理解度、活動への共感性に応じて、提案する取り組み内容を変える必要がある。その際に、目的、アプローチ方法に幅を持たせた形で事業パターンを提示して、取り組みやすいもので連携してもらうことを考える。



◇ 「地域と連携した北方領土問題啓発活動」(今年度のパイロット事業)の取組内容例

<お祭り型・県民の集い/市民まつり>

- 北方領土(北方四島)に関連したブース展開(北方領土の自然等)
 - ・ 県民の集い/市民まつりの開催に合わせて、「北方領土」(北方四島)に対する認知・理解を促す内容のブースを展開する。
- 北方領土(北方四島)に関するポスター掲出、パンフレット等の配布
 - ・ 「北方領土」(北方四島)に対する認知・理解を促すポスターの掲出や県民の集い/市民まつり参加者に対して、パンフレット等を配布することを検討する。
- 北方領土(北方四島)に関連したテーマをモチーフにした景品の進呈/グッズの配布
 - ・ 県民の集い/市民まつりにおいて、北方領土エリカちゃんのグッズを来場者に進呈することで、北方領土(北方四島)に対する興味を喚起する。
- キャラクター(エリカちゃん)の活用(イベントへの参加等)
 - ・ 北方領土エリカちゃんの着ぐるみを県民の集い/市民まつりに参加させる。
- 北方領土返還要求運動への賛同・署名活動

<スポーツイベント型(例:市民マラソン)>

- 北方領土(北方四島)に関連したブース展開(北方領土の自然等)
 - ・ 音楽祭の開催に合わせて、「北方領土」(北方四島)に対する認知・理解を促す内容のブースを展開する。
- 北方領土(北方四島)に関するポスター掲出、パンフレット等の配布
 - ・ 「北方領土」(北方四島)に対する認知・理解を促すポスターの掲出や音楽祭参加者に対して、パンフレット等を配布することを検討する。

- **マラソンと連動させた広報（北方領土問題への理解）**
 - ・スタートからの「貝殻島までの距離」（3.7km）をイメージさせるマップを用意するなど、マラソンと連動させた取り組みを行うことで、北方領土問題への興味を喚起
→島までの距離を標識で示す方法については、走る距離と時間を厳密に見ているランナーの混乱を招くため、採用しない
- **北方領土（北方四島）に関連したテーマをモチーフにした景品の進呈/グッズの配布**
マラソンにおいて、北方領土エリカちゃんのグッズを来場者に進呈することで、北方領土（北方四島）に対する興味を喚起する。
例）「北方領土の日」2月7日にちなんで、27位のランナーに景品を進呈
- **キャラクター（エリカちゃん）の活用（イベントへの参加等）**
 - ・北方領土エリカちゃんの着ぐるみを県民の集い/市民まつりに参加させる。
- **北方領土返還要求運動への賛同・署名活動**

<講演会>

- **「北方領土問題」をテーマにしたセミナー等の開催**
 - ・シンポジウムの開催に合わせて、同会場内で、「北方領土問題」をテーマにしたセミナー等を開催する。
- **「北方領土問題」をテーマにしたブース展開**
 - ・シンポジウムの開催に合わせて、同会場内で、「北方領土問題」の啓発を行うブースを展開する。
- **「北方領土問題」について啓発するポスター掲出、パンフレット等の配布**
 - ・上記のようなセミナー開催、ブース展開が難しい場合には、シンポジウム会場内に、「北方領土問題」について啓発するポスターの掲出やシンポジウム参加者に対して、パンフレット等を配布することを検討する。
- **北方領土（北方四島）に関連したテーマをモチーフにした景品の進呈/グッズの配布**
- **北方領土返還要求運動への賛同・署名活動**
 - ・シンポジウムの開催に合わせて、同会場内（または会場近く）で、「北方領土の返還を求める」署名活動を行う。

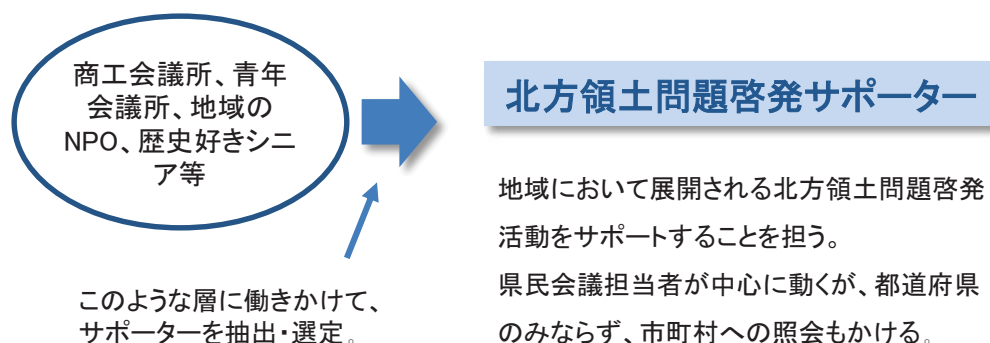
<勉強会（北方領土問題に関する勉強会を実施）>

- **北方領土及び北方領土問題（以下、本テーマ）についての講演（レクチャー）**
 - ・本テーマの歴史、現状、今後の展望などに加えて、国の取組、全国取組紹介など
- **本テーマに関しての意見交換の実施**
- **北方領土返還要求運動への賛同・署名活動**

⑤ 「地域と連携した北方領土問題啓発活動」（今年度のパイロット事業）に協力するサポーター組織の構築

- ・今回の関係者インタビューで聞かれたように、連携した取り組みに協力したいが、特に人的な負担に対応できないという声が聞かれた。この点を考慮し、連携した取り組みをサポートできるマンパワーを確保する。

- ・商工会議所、青年会議所、地域のNPO、歴史好きシニア等のなかから、北方領土問題啓発活動に取り組む意向のある人を「北方領土問題啓発サポーター」として認定。
地域の県民会議（北方領土返還要求運動都道府県民会議）が委託する形にする。



- ・今回、パイロット事業で連携した団体から、今後の可能性としては、稼働する人員を出せるか否か、という話も聞かれた。団体側も連携した事業のための人員がいなかったため、その部分を北方領土問題啓発サポーターが補うことも考える。

(2) 地域に啓発活動を自らの活動として実施してもらうための働きかけ

- 「北方領土問題啓発サポーター」に、「地域と連携した北方領土問題啓発活動」を主体的に動かしてもらう。
- ・前述した「北方領土問題啓発サポーター」に「地域と連携した北方領土問題啓発活動」に取り組む際のサポートだけでなく、活動の中心となって主体的に動く役割を担ってもらう。
→地域の既存のイベント・催事に合わせて啓発活動を行う形から、「北方領土問題啓発サポーター」が主体となり、一から作り上げる活動に取り組んでもらう。
- ・地域において、「北方領土問題啓発サポーター」の組織化が進んだ段階で、情報共有できるようにネットワーク化。それぞれの活動内容について、情報共有するとともに、定期的な会合（総会等）を行い、優れた活動を行うサポーター（チーム）を表彰するなど、モチベーションを高めながら、地域で競わせる仕組みを導入することで、活動の活性化を図る。

(3) 啓発用広報キャラクターを活用して北方領土問題啓発活動の内容をより魅力的なものとするための方策

① 啓発用広報キャラクター「エリカちゃん」を活用して、若年層、親子層に対するアプローチを強化

- ・今回のパイロット事業では、行く先々で「エリカちゃん」は人気者で、若年層、親子連れが、「エリカちゃん」と一緒に写真を撮る姿が数多く見受けられた。リニューアルを経て、大きいながらも可愛らしいキャラクター（着ぐるみ）に仕上がっているため、様々な場面で、北

方領土問題啓発のアイコンとして機能させることが求められる。

- ・北方領土問題啓発活動に関連した取り組みのなかで、登場するだけでなく、幼稚園の表敬訪問など、エリカちゃん単体での取り組みを増やし、「北方領土問題に対する意識喚起」を促す取り組みも可能になる。

→卒園式、入学式等のイベントに出席することも考える



② 「エリカちゃん」をモチーフにしたノベルティの展開により北方領土問題の情報を拡散

- ・パイロット事業の評価調査の景品として配布したノベルティ商品、特にトートバックは、人気が高かった。表面に大きく「エリカちゃん」がデザインされていたが、皆、違和感なく、景品として受け取り、そのまま、活用する姿が見受けられた。
- ・今後、事業の際には、積極的に「エリカちゃん」をモチーフにしたノベルティを活用し、北方領土問題に接する機会を増やしてもらうことが望ましい。
- ・事業以外での展開も含めて検討し、「エリカちゃん」を通じて、北方領土問題に対するさらなる興味・関心の強化につなげることが望ましい。

→今回のマラソンのようなイベントの際には、SNS用フォトフレームを用意。イベントへの参加とあわせて、エリカちゃんも拡散してもらう。

ノベルティ／エコバック



SNS風フォトフレーム



大分県豊後高田市が活用しているフォトフレームの例